

2025年1月26日 主日礼拝 降誕節 第5主日

説教題：「**立ち上がるザアカイ**」

聖書箇所：ルカによる福音書19章1 - 10節 (146頁)

説教者：秀島牧師 招詞：讚美歌93 - 1 - 29 交読詩編：詩編102編13 - 19節 (110頁)

讚美歌：83/277 (罪なき神の子) /488 (お招きに応えました) /543 (キリストの前に) /27

「今週の聖句」〔…**ザアカイは立ち上がって、主に言った。「主よ、…」イエスは言われた。「今日、救いがこの家を訪れた。…」**〕 (ルカ伝19:8-9)

「牧師室の窓」 「ザアカイの心の寂しさ我も知る主の呼び掛けに踏み出す一步」

「ザアカイを招く主の声我も聞く新たな日々のこれより始まる」

(1)皆様おはようございます。先週の1月20日は二十四節気の大寒でした。来週には節分、続いて、立春を迎えます。この2週間が1年で最も気温が低くなる時期です。節分は1年間で4回ありますが、立春前日の節分が季節の行事として残っています。節分と言えば、豆まきの行事があります。豆まきと共に、焼いた鰯(いわし、魚の鰯です)の頭を柁(ひいらぎ)の枝にさして玄関の戸口に飾ります。焼いた鰯のにおいと柁の棘(とげ)が邪気(じゃき)を払うとの言い伝えて、春からの1年間の健康と平安を願う民間行事が広く伝わって来ました。私が幼い頃には、電車の踏切に行き、事故がない様にと、豆撒きをしました。皆様のお家(うち)では行なわれているでしょうか。現在の都会では殆んど行なわれていないのかも知れません。このような季節の行事は、人々が健康を願う素朴な祈りと言えましょう。貧しさの中にも、素朴な素材を用いて演出する工夫や知恵や面白さがあります。僅かなことがきっかけとなり、人間は生きる勇気を与えられ、見えている世界が、景色が変わってくるのです。きょうの聖書箇所はある出来事によって、生きる力が湧いて来たザアカイと言う人物についての物語が書かれています。皆様と共に味わいましょう。

(2)きょうの聖書箇所の話は、分かり易く言いますと、場面の数では「4コマ漫画」と言いますか、場面の展開では、「起・承・転・結」方式で描かれています。

おおまかに言えば、1コマ目は「ザアカイと言う人の紹介」。

2コマ目は「いちじく桑の木に登ったザアカイ」。

3コマ目は「木の下の子イエス様と木の上の子ザアカイとの会話」。

そして、4コマ目は「ザアカイの意思表明とイエス様の救いの言葉」になります。

新約聖書の中でも名場面の一つと言えるでしょう。

では、始めに1コマ目の記事を見てみましょう。19章1節～4節です。〔(ルカ伝19:1)イエスはエリコに入り、町をとおられた。(19:2)そこにザアカイという人がいた。この人は**徴税人の頭**で、金持ちであった。(19:3)イエスがどんな人か見ようとしたが、背が低かったので、群衆に遮られて見るができなかった。(19:4)それで、イエスを見るために、走って先回りし、いちじく桑の木に登った。そこを通り過ぎようとしておられたからである。〕この1節には場所の名前が「エリコ」と書かれています。エリコは塩の湖(死海)の北側に位置する大きな町でした。イエス様と弟子たち一行のガリラヤからエルサレムまでの百数十kmの道歩きももう少し、あと20km程です、その主要道路にあります。エリコの標高は約250mで、エルサレムの標高が約800mですから、上り坂の道が続きます。ルカ伝10章に出てくる「良きサマリア人」の譬え話には、〔(ルカ伝10:30)…ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追いはぎに襲われた。…〕と書かれていますので、エリコとエルサレムの位置や地形の関係が成程と合点がゆくものと思います。余談ですが、聖書を読む場合には、その場面の風景、木や草の生え具合、土の色、風の吹き具合、食事の時のお皿の大きさや形や絵柄などなど、出来得る限りの情報を集め、想像を豊かにしますと、登

場人物の様子や心の状況を推し量ることができます。皆様も劇場や映画の監督になった積もりで聖書を読まれますと、リアルな場面にご自身を登場することが可能になるでしょう。

(3)話を進めます。1コマ目です。2節に「ザアカイ」が登場します。ザアカイとはヘブル語で、純粹・正しい・清い人という意味です。「徴税人」とは、ローマ帝国への税金を納める役職であり、ユダヤ人を使ってユダヤ人から税金を納めさせていたのです。制度的には間接支配ですが、実態は直接支配です。徴税人は異邦人（つまり、外国人）の言いなりになって神の民であるユダヤ人を苦しめていること、また、私腹を肥やして税金を取っていると人々が推測していましたので、人々から「罪人」として忌み嫌われていました。併し、「徴税人」は計算ができ、帳簿を付けることができ、ローマ帝国の担当者に報告をする論理力・説明力を持っていると推測できます。

…余談ですが、私は信徒時代に、税務署と言うよりは国税局の方々と相対しての仕事をしました。先方は、使命感を持ち、分析力・判断力・英語力の高い方々でした。日本国憲法の第30条には「納税の義務」が書かれています。日本の民主主義の一端は税務に携わる人々の真摯な情熱によって支えられていると言っても過言ではないと私は思っています。

(4)2コマ目です。3節4節にはザアカイと言う人の人間性・資質・判断力・行動力が記されています。〔イエスを見るために、走って先回りし、いちじく桑の木に登った。そこを通り過ぎようとしておられたからである。〕ここには、何としてでもイエス様の姿を、この目で見てみたいと言う、心の底から突き上げてくるものがあつたと推測できます。皆様にもこの思いが伝わってきますでしょう。ここに「いちじく桑の木」と書かれています。この木はくわ科の常緑樹で木の高さは10m程ですが、枝は横に広がり、根本(ねもと)近くからも枝が出て木に登り易いのです。「背が低」いザアカイが登ることができました。場面設定が素晴らしいですね。では、何故、「いちじく桑の木」がそこに植えられていたのでしょうか。枝の至る所で沢山の果実があり、貧しい人々の食用となるとある本に記されています。亜熱帯性の植物で、実(果実)には甘みがあると書かれています。聖書には、この様に状況がよく組み立てられており、緻密な配置がされています。新約聖書のヘブライ人への手紙4章には次のような言葉が書かれています。新約聖書405頁〔(ヘブル書4:12)…神の言葉は生きており、力を発揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができるからです。〕今日の聖書箇所「いちじく桑の木」と書かれて言葉の中にも「神の言葉は生きて」いることが実感できます。

(5)次に3コマ目は5節6節です。〔(19:5)イエスはその場所に来ると、上を見上げて言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」(19:6)ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。〕この箇所を見て、皆様は不思議に思う、合点がいかない、と思われませんか。まだ会ったことがない、名前を聞いたことがないザアカイのことをイエス様は親しく呼びかけたのです。加えて、宿泊することを申し出たのです。私たちが読んでいる新共同訳聖書には「泊まりたい」と希望・要望として翻訳されています。口語訳や聖書協会共同訳では「泊まることにしている」と事前に予定している決定しているかの様に翻訳されていますが、原文のギリシア語では「命令形」ですから、「泊まらなければならない」と言う意味です。神からの呼び掛けとして、旧約聖書の創世記3章には神との約束に背いて身を隠していたアダムとエバに対して、神は〔(創世記3:9)…「どこにいるのか。」〕と問われますが、きょうの聖書箇所の5節6節はザアカイを受け入れる呼び掛けです。今日のこの5節にあるように、皆様はこのイエス様からの突然の、思いもよらない呼び掛けに出会われたことはないでしょうか。このイエス様からの、主なる神からの呼び掛けは、予想もしない時に起きるのです。この呼び掛けに対して、ザアカイはどの様に対応したでしょうか。6節には〔(19:6)ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。〕と書かれています。新約聖書のマタイ伝福音書25章に「十人のおとめのた

とえ」が書かれています。ともし火の油の補充を準備していた5人の女性と補充の用意をしていなかった5人の女性の話が書かれています。この話は様々に解釈できますが、話の本質は心の目を覚まし、主の呼び掛けに応える準備をすることにあります。ザアカイの心の中の燻(くすぶ)りや、悲しみが無くなり、直ちに行動し主のもとに来て、主を迎え入れたのです。6節の「喜んでイエスを迎えた」この言葉を別の言葉に置き換えるとすると、旧約聖書サムエル記上3章に記されている「主よ、お話し下さい。僕は聞いております。」に通じませんか。参考にして下さい。

(6)続いて、7節を見てみましょう。これは一種の間奏曲やト書(とが)きと考えることができます。ここには関門が、障害物が待ち受けているのです。ザアカイを「罪深い男」と決めつけ、イエス様を「罪深い男」と同じであると判断している人々が「つぶやいた」・囁(ささ)いたのです。彼らは物事を、人間の価値を表面的に判断していました。現代の世の中にも、物事を表面的に理解する、書かれている文字のみによって理解する人たちが多くいます。文字と文字の間を確認し、一行一行の行間を読み込み、真実を掘り当てなければなりません。

…私がある会社で取締役として働いていた時のことです。ある方と私の二人で対談をするようになりました。その方はある大学の医学部の元教授で、法医学教室の先生でした。「法医学教室の〇〇」という小説で著名な小説家であり、大きな客船で働くお医者さんでした。私はその先生の小説やノーベル文学賞作家、大江健三郎の小説を読んでいましたので、また、職業上、船に関する知識があり、話が合いました。その先生は法医学者が刑事事件関係で人体を解剖するに当たって最も注意すべきは、物事を表面的に理解するな、真実を見抜きなさいと言うことでした。法医学をテーマにした小説やテレビドラマを見られた方は成程と思われるでしょう。

(7)最後に4コマ目は8節～10節です。8節の「しかし」にはザアカイの意思が込められており「ザアカイは立ち上がった」たのです。ザアカイは自分の「財産の半分を貧しい人々に施します…」と言いました。先週の礼拝で読みました金持ちの議員とは異なる行動です。イエス様は先週の18章25節で〔(ルカ伝18:24)…金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。〕と言われたことと対比することができます。重要なことは、物事を0%か100%かの二者択一ではなく、自分にできることを、心を込めて行なうことであると言えるでしょう。その判断力、自己決定力が、ザアカイをしがらみから解き放ち、新しい人生を歩むことになったのです。「立ち上がった」たザアカイの体は、主と共に生きる人生へと変えられたのです。

9節10節〔(19:9)イエスは言われた。「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。(19:10)人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」〕私たちは心の中に、イエス・キリストをお招きし、救われた人間として日々を歩もうではありませんか。

・・・お祈りします。

主なるキリストの神様。私たちはこの新しい年を聖書の御言葉によって導かれ養われることに感謝いたします。私たちが出来ることは僅かですが、ザアカイがイエス・キリストを迎えました様に、私たちも立ち上がり主の御用に生きて参りたいと願っています。

この地上で、戦争が起きている地に住む人々に、自然災害で困難の中にある人々に、生活の中で困っている人々に、平安と慰めがありますように。教会に連なる一人ひとりに、地域で生活している、働いている一人ひとりに、主なる神の御恵みがありますように。

イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

〔新共同訳(ルカ伝19:1)イエスはエリコに入り、町をとおられた。/(19:2)そこにザアカイという人がいた。この人は徴税人の頭で、金持ちであった。/(19:3)イエスがどんな人か見ようとしたが、背が低かったので、群衆に遮られて見ることができなかった。/(19:4)それで、イエスを見

るために、走って先回りし、いちじく桑の木に登った。そこを通り過ぎようとしておられたからである。/(19:5)イエスはその場所に来ると、上を見上げて言われた。「**ザアカイ、急いで降りて来なさい。**今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」/(19:6)ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。/(19:7)これを見た人たちは皆つぶやいた。「あの人は罪深い男のところに行って宿をとった。」/(19:8)しかし、**ザアカイは立ち上がって、主に言った。**「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。」/(19:9)イエスは言われた。「**今日、救いがこの家を訪れた。**この人もアブラハムの子なのだから。/(19:10)人の子は、失われたものを**捜して救うために来たのである。**」]